

△強い子弱い子

赤坂區早坂 松田清
幼稚園園長

七歳の男児で實に手にあまるのがありました。性質伶俐上級の幼児を自分一人でうごかしてると云つてもよい位我まゝのしほうだいで、まるで同情とか謙讓とかの徳をかいてゐます。假令ばお角力をすれば他児がわざとまけてやらねば後でいぢめると云ふ風、保育者がそれはいけませんと制すれば、きいたふりしては居ても、少しの効能もありません。甚しきは、會集の時自分のうたひたかない唱歌には、皆に見える様に自分の口に手の指をあてる。そして、保育者がどんな顔をして居てもピタとうたふのを止める。これには全くもてあまして終ひました。以前には大層お互の制裁の強かつた児供達も、この児には全く盲従して、終りにはへつらふ兒さへ出來てきました。或る時は別室にまねいて叱つたり、或る時は多勢の他児に、

各自自重心を持つてへつらはぬ様にせよと話し會集其他指導遊戯の時など、殊更に其の兒を後にして、なるべく勢力を持たせぬ工風をしましたが更に効ありません。處が園長が或る日、會集の時如何しても先生の命を守らず善くならぬ御子様を明朝こゝでおしをきを致します」と云ひ渡しました。それが案外に其の子に効を奏して、一日くと謙んで、今日でも矢張り勢力を持つていますがさきの日の如き悪い事は致さない様になりました。五歳の男児、これはまた内氣で、臆病で、毎日登園しても、自由遊戯(外遊)の時は何もいたしません、他兒の遊びを見やうともいたしません。園に限らず室庭以外に一步をふみいだすともう何もかも不愉快で居るらしいのです。そして其不平を歸宅後發して實にだゝを云ふ事甚しいとの事でした。そこで此の子には第一着に園を愉快なる處とせねばならぬと思ひまして、萬事に元氣をつけ

てやりました。それこそおべんとうの箸の上げおろしにも元氣をつけました。第二に友を作つて進ようと思ひました處が、どうもこんな元氣なき内氣な兒は他兒がきらひまして誰一人相手になりません。これは困つたと、それからはこの兒供を他兒に注意せしめようと、何か皆に話す時は必ず其の兒の名前を云つて話柄としました。又積木などを皆にくばる用を、必ずこの兒と、もう一人すばしつこい元氣のよい兒とにたのみました。ぐずくとふしめ勝ちに運ぶのを後からホイ〜追ひ立てるやうにして、時には手もひきました。これらの結果か如何か、此頃は大分動作が元氣づいて、他兒もよく氣をつけて遊ばせますので、竹の先に、ハンケチをむすびつけて旗を作り、頭にはちまきなどして走りまわり、又は他兒の遊びに笑を催す様になりました。家庭ではいまだ氣が付く程の變りはないようですが、他に出ての勇氣はだんくつくでありませうと、實に楽しみにして居ります。

△△△△△△△△△△ 新入園兒の取扱ひ方

を何ひ度ひと思ひます。新入園の幼兒をやさしく巧に取扱つて幼稚園に全く慣れさせるまでには、多くの苦勞を要することでありませう。今や丁度その時期に近づいて居りますし、之れまでの皆さんの御實驗中、御成功談なり、又失禮ながら御失敗談なり、いづれも理窟や議論ではとても解決の出來ぬ此の問題研究の爲に、心得て置く必要のある貴い御實驗をお惜みなく澤山御發表願ひ度いのであります。締切は二月十日。

●それから、右と矢張り同じ趣旨で、前號から

△△△△△△△△△△ 保育の實際

の項を設けました。つまり皆さんの日々保育の實際の間に絶えずなく起つてくる出來事や、御感想や、いろ〜の御工夫や、慣れては御自身夫れ程にもお思ひにならぬ事の中に、他の人には珍らしい大に參考になることが澤山ある。それを會員同志互に惜まず知らせ合ふといふ目的であります。こういふことが相互の爲に、どの位有益であるかは申すまでもないことと思ひます。それも、一つのまとまつた論文にでも書き上げるといふことはお忙しひ處度々も願へますまいが、いはゞ小さい箇々の御實驗を、どんなことでもそのまゝ何はせて頂けば、それが結構なのであります。之れには勿論締切といふものはなし。いつでもお心づきの度毎にやさしい言文一致で、ふだんのお話のまゝを書いて送つて頂き度いのであります。もし又保育の實際に關し御疑問などがあつた場合、斯うして皆で研究すれば、良き解決を得られることと思ひます。